

令和7年度 滋賀県 英語教育改善プラン

目標

自分や相手のこと等身近で簡単な事柄について、概要を捉え、簡単な語句や基本的な表現を用いて発信することができる児童の育成を目指す。

☒言語活動
 ☐指導と評価の一体化
 ☒教師の英語力・指導力
 ☐校種間連携
 ☐ALTの参画
 ☒ICTの活用
 ☐AIの活用
 ☐その他

(パフォーマンス含む)

(専科教員含む)

(AIを除く)

1. 目標に対する現状

①研修や自己研鑽の機会

*「必要な情報や研修、自己研鑽の機会等を十分に設けている」の項目で肯定的な回答をした学校数の割合

県 R5:60.8%⇒R6:70.9%

国 R5:71.8% R6:74.8%

(R5,6全国学力・学習状況調査学校質問の結果より)

②言語活動を通した指導

*「授業中50%以上の時間、言語活動を行っている」と回答した学校の割合

県 R4:95.0%⇒R5:95.7%

国 R4:91.9% R5:94.4%

(R4,5英語教育実施状況調査の結果より)

①児童の英語に対する意欲

*「英語の勉強は好きですか」の項目で肯定的な回答をした児童の割合

県 R5:68.2%⇒R6:68.0%

国 R5:69.3% R6:69.3%

(R5,6全国学力・学習状況調査児童質問の結果より)

2. 要因分析

①小学校パイオニア実践プロジェクト事業において、外国語専科教員を配置した全小学校で、授業公開および授業研究会を実施し、指導主事が指導・助言している。近隣の学校から参加する教員も増加している。

②英語発信力育成事業等において、言語活動の在り方に焦点を当てた研修会を実施してきた。外国語を担当する教員が、言語活動の意義を理解することで、単元の中で、効果的・継続的に言語活動を実施することにつながっていると考えられる。

①英語の勉強が好きではない理由について、「発音が難しい」、「うまく英語で話せない」、「教科書の英語を読めない」等の声がある。全ての児童についても、授業内容が分かり、楽しいと思える授業づくりについて、ICT機器を効果的に活用するための実践事例の普及等の支援を行う必要があると捉えている。

3. 目標を達成するための施策・事業

【ア】小中をつなぐ英語発信力育成事業

- ・言語活動を通した指導およびICTを効果的に活用した授業づくりについて、有識者から助言を受ける機会を設定するとともに、指導主事が実践に関わる支援を行う。
- ・実践の成果を県内に普及し、外国語を担当する教員の授業力の向上を図る。

【イ】小学校英語パイオニア実践プロジェクト

- ・公開授業および授業研究会において、言語活動を通した指導、小中連携および、ICTの効果的な活用等について普及する。

【ウ】滋賀県小・中学校教育課程研究協議会

- ・言語活動の充実、指導と評価の一体化、ICTの効果的な活用等について、参集またはオンデマンド動画配信での研修を行う。

【エ】The English Edu. Newsletterの発行

- ・小・中・高で実施している事業の成果等を定期的に伝える外国語科通信を発行し、県内全ての県立、市町立学校および附属小・中学校に配付する。

改善が進んだ点

未だ改善が必要な点

令和7年度 滋賀県 英語教育改善プラン

目標

日常的な話題や社会的な話題について、要点を目的に応じて捉え、考えたことや感じたこと、その理由などを簡単な語句や文を用いて相手に発信することができる生徒の育成を目指す。

○CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合 (R6 : 49.5% ⇒ R7 : 55.0%)

☒ 言語活動
 ☒ 指導と評価の一体化
 ☒ 教師の英語力・指導力
 ☐ 校種間連携
 ☐ ALTの参画
 ☒ ICTの活用
 ☐ AIの活用
 ☐ その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

①「言語活動が行われていた」と思う生徒の割合

*「聞くこと」

県 R5 74.8% ⇒ R6 80.2%

国 R5 78.2% R6 83.3%

*「読むこと」

県 R5 76.9% ⇒ R6 82.1%

国 R5 80.3% R6 85.6%

*「やり取り」

県 R5 57.9% ⇒ R6 61.4%

国 R5 63.8% R6 68.8%

(R5,6全国学力・学習状況調査
生徒質問の結果より)

2. 要因分析

①英語授業改善プロジェクト学校訪問において、指導主事が、言語活動をする意義、言語活動の具体的な実践等についての指導・助言を行ってきた。このことにより、「授業で言語活動が行われていた」と思う生徒の割合が上昇したと考えられる。ただ、全国平均には及んでいないので、さらなる実践例の周知が必要である。

①- (1) 生徒の英語力を測る評価について、教員が生徒の英語力を適切に測る力を身に付ける必要がある。各事業において、評価の在り方を継続的に指導していく。

①- (2) 各調査等から、英語力の二極化が進んでいることが窺える。校種間連携をさらに促したり、ICTを効果的に活用した取組例を紹介したり等、全ての生徒の英語力も向上できるような支援をする必要がある。

3. 目標を達成するための施策・事業

【ア】英語授業改善プロジェクト学校訪問

URL: <https://youtu.be/Iy6L4CrSoOo>

- ・3年間で全ての県内中学校および義務教育学校を訪問し、学習者用デジタル教科書の効果的な活用方法について、指導主事が助言を行う。
- ・言語活動の意義、評価の在り方についても指導・助言を行う。



【イ】滋賀県小・中学校教育課程研究協議会

- ・言語活動の充実、指導と評価の一体化、ICTの効果的な活用等について参集またはオンデマンド動画配信での研修を行う。
- ・指導と評価の一体化を実現するため、受講者が作成した筆記テストを分析する。

【ウ】小中をつなぐ英語発信力育成事業

- ・小中において系統的に発信力を育成するための指導について有識者から助言を受ける機会を設定するとともに、指導主事が実践に関わる支援を行う。
- ・実践の成果を普及し、外国語を担当する教員の授業力の向上を図る。

【エ】The English Edu. Newsletterの発行

- ・小・中・高で実施している事業の成果等を定期的に伝える外国語科通信を発行し、県内全ての県立、市町立学校および附属小・中学校に配付する。

改善が進んだ点

未だ改善が必要な点

①生徒の英語力

*CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合

県 R5 52.7% ⇒ R6 49.5%

国 R5 50.0% R6 52.4%

(R5,6英語教育実施状況調査の結果より)

令和 7 年度 滋賀県 英語教育改善プラン

目標

日常的な話題や社会的な話題について、聞いたり読んだりした内容を目的に応じて捉えたり、情報や考え、気持ちなどを理由や根拠とともに書いたり、話したりして、相手に発信をすることができる力を育成する。

○CEFR A2レベル相当以上の英語力をもつ生徒の割合 (R 6 : 53.9% ⇒ **R 7 目標 : 56.0%**)

○CEFR B1レベル相当以上の英語力をもつ生徒の割合 (R 6 : 18.8% ⇒ **R 7 目標 : 24.0%**)

☒ 言語活動 ☒ 指導と評価の一体化 ☐ 教師の英語力・指導力 ☐ 校種間連携 ☐ ALTの参画 ☒ ICTの活用 ☒ AIの活用 ☐ その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

未だ改善が必要な点

① 生徒の英語力の向上

*CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合

R 5 52.1%→R 6 53.9%
令和 5 年度から全国平均を上回る水準を維持している。

*CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合

R 5 15.5%→R 6 18.8%
全国平均には達していないが、向上の傾向が見られる。

① 生徒の言語活動時間の確保

*授業における、生徒の英語による言語活動の割合 (50%以上)

R 5 54.5%→R 6 41.1%
R 7 目標値 : 80.0%

② パフォーマンステストの実施

*スピーキングとライティングの両方を実施した割合

R 5 41.7%→R 6 35.2%
R 7 目標値 : 70.0%

2. 要因分析

① 生徒の英語力の向上

令和 6 年度から開始した英語教育インフルエンサー育成プロジェクトを通して、各校で授業改善が進み、4 技能 5 領域をバランスよく育成できたことが要因と考えられる。

① 生徒の言語活動時間の確保

「何ができるようになるか」よりも「何を学ぶか」という知識習得の側面に比重を置いた授業が行われていることが要因と考えられ、身に付けた知識や技能をコミュニケーションの目的・場面・状況に即して活用することが必要である。

② パフォーマンステストの実施

①で挙げた、生徒の言語活動時間を十分に確保できていないことが、パフォーマンステストの実施率の低さに結びついている。普段の授業から、言語活動の機会を増やし、指導と評価の一体化についての充実に努める必要がある。

3. 目標を達成するための施策・事業

①①②英語教育イノベーション事業 (AI の活用による英語教育強化事業)

生徒の発信力育成に資する英語指導の改善の一つとして、AIを活用した「話すこと」の実践に係る実証研究を進める。

①①②英語教育インフルエンサー育成プロジェクト

以下の【ア】【イ】を二本柱とし、各校における英語教育インフルエンサーの育成を通して、効果的な授業改善を促進し、県英語教育の充実を図る。

【ア】 英語教育エッセンシャル研修

次の 3 点に係る英語シリーズ研修の実施。各研修では外部有識者による講演やワークショップなどを実施し、実効性の高い研修を目指す。

1. 授業改善の意義と目的を理解すること
2. 授業改善を図るために必要なリソースとスキルの習得を目的とすること
3. 授業改善を進めるための外国語科教員のネットワークや外国語科の組織づくりを構築することなどを目標とすること

【イ】 授業改善プランナー養成プロジェクト

授業改善プランナーとして推薦を受けた外国語科教員が、外部有識者等の指導助言を受けながら、言語活動を通じた生徒の英語力向上を目指す授業改善の授業研究に取り組む。県内外国語科教員向けに公開授業を行い、授業改善の一例を示すことで、県英語教育の充実を図る。今年度の授業研究のテーマは、「話すこと」の実践に係るAIの活用とする。

①グローバルユース育成事業

学びの成果を英語で発表する高校生国際会議の開催を通じて、グローバル社会で活躍できるリーダーシップ力、課題解決力、コミュニケーション力を備えた人材の育成を図り、グローバルに活躍することが期待される層の拡充を推進する。

目標達成状況一覧表

滋賀県教育委員会

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		53.0%	52.1%	54.0%	53.9%	56.0%		58.0%		60.0%	
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		20.0%	15.5%	20.0%	18.8%	24.0%		28.0%		30.0%	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合（％）		80.0%	54.5%	80.0%	41.1%	80.0%		80.0%		80.0%	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合（％）		50.0%	41.7%	60.0%	35.2%	70.0%		80.0%		90.0%	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100.0%	100.0%	100.0%		100.0%		100.0%		100.0%	
		公表（％）	60.0%	41.2%	60.0%		70.0%		80.0%		90.0%	
		達成状況の把握（％）	60.0%	43.1%	60.0%		70.0%		80.0%		90.0%	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（％）		75.0%	78.2%	80.0%	71.1%	82.0%		84.0%		86.0%	
	⑥英語担当教員の授業における英語使用状況（％）		60.0%	30.6%	60.0%	25.7%	60.0%		60.0%		60.0%	

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		55%	52.7%	55%	49.5%	55%		57%		60%	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合（％）		90%	78.9%	90%		90%		90%		90%	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合（％）		100%	81.6%	100%		100%		100%		100%	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100%	100%	100%		100%		100%		100%	
		公表（％）	100%	71.4%	100%		100%		100%		100%	
		達成状況の把握（％）	80%	74.5%	80%		85%		90%		95%	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（％）		50%	47.1%	50%	39.9%	42%		44%		46%	
	⑥英語担当教員の授業における英語使用状況（％）		90%	73.5%	90%		92%		94%		96%	

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100%	100%	100%		100%		100%		100%	
		公表（％）	50%	55.5%	60%		70%		80%		90%	
		達成状況の把握（％）	85%	80.9%	85%		90%		95%		100%	